



疫病退散のために舞われた踊りを表現

雪入十五社神社祭礼幕

&

先人たちの知恵と技術による漁法

帆引き網漁法の漁具

かすみがうら市の

文化財に指定

(12月1日指定)



◀帆を引くセミ (滑車)



明治13年本市坂出身の折本良平
によって考案され、沿岸に暮らす
多くの人々に、生活の安定を与え
た「帆引き網漁法」は、その後、
漁師、船大工、網大工など、霞ヶ
浦とともに生きた人々の手によっ
て、改良が重ねられました。これ
ら先人たちの知恵と技術の結晶で
ある偉大な功績を文化的遺産とし
て後世に伝えていくため、郷土資
料館に展示・收藏されている船、
網、帆、セミなど、漁具20点を指
定しました。

雪入区が所有する「雪入十五社
神社祭礼幕」は、文政年間（江戸
時代）に製作されたものと推定さ
れ、江戸期に全国で流行した鹿島
踊りの絵が描かれています。鹿島
踊りとは、本県の鹿島神宮で疫病
退散のために舞われた踊りで、後
に全国に流布したものです。幕は
1月24日（日）まで、水戸市の県
立歴史館「鹿島信仰―鹿島神宮と
鯨絵」展の中で公開されています
の、ぜひご覧ください。
※歴史館の休館日・月曜日（祝日の場
合はその翌日）、年末年始（12月28日
～1月1日）

コミュニティ助成事業で山車を製作(角来区)

財団法人自治総合センターが実施している「コミュニティ助成事業」を受け、角来区が山車の製作を行いました。同事業は、宝くじの普及と住民の自主的な活動の促進を図り、地域の連帯感を醸成する目的で行われているものです。角来区では、毎年7月に夏祭りを実施。メインとなる山車を率いて、地域住民の親睦融和を図っています。



投稿写真募集中!!

家族やペット、珍しい物などあなたの身の回りの写真をお待ちしています!



もみじ紅葉庭園

塚本 丈夫さん (栄倉)

京都の苔寺に
あこがれ、もみじを
増やしています。
毎年11月下旬頃
見頃を迎えています。

かすみがうら市の人口と世帯

平成21年12月1日現在

人口	44,235人
男	22,373人
女	21,862人
世帯	15,594世帯

皆さんの声をお聞かせください!

広報誌へのご意見・お気づきの点などをお寄せください。
メール・はがき・電話などいずれの方法でも結構です。

「広報かすみがうら」は、ホームページで掲載しているほか、市内の公共施設、コンビニや金融機関などにも設置しています。(一部のコンビニには設置されていませんのでご理解をお願いします。)



広報誌は環境にやさしい大豆油インキを使用しています。